



たとえ映画のタイトルを知らなくても、劇中歌のメロディーは誰もが知っているはず。そんな名曲たちと心躍るダンス・シーンで紡がれた名作ミュージカルと大スクリーンで再会できる。なんてワクワクする企画だろう。

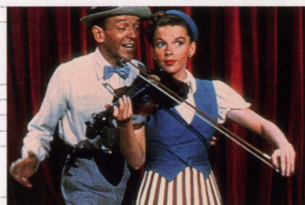
—— 萩尾瞳 (映画・ミュージカル評論家) ——

映画を彩る名曲たち



●若草の頃●

- ♪ The Boy Next Door
ボーイ・ネクスト・ドア
- ♪ The Trolley Song
トロリー・ソング
- ♪ Have your self
A Merry Little Christmas
メリー・リトル・クリスマス
- ♪ Skip to My Lou
スキップ・トゥ・マイ・ルー
- ♪ You and I
ユー・アンド・アイ



●イースター・パレード●

- ♪ Drum Crazy
ドラム・クレイジー
- ♪ It Only Happens
When I Dance with You
君と踊る時だけ
- ♪ Shakin' the Blues Away
シェイキング・ザ・ブルース・アウェイ
- ♪ Steppin' Out with My Baby
ステッピングアウト・ウィズ・マイ・ベイビー
- ♪ A Couple of Swells
カップル・オヴ・スウェルズ



●バリのアメリカ人●

- ♪ Embraceable You
君に夢中
- ♪ I Got Rhythm
魅惑のリズム
- ♪ Our Love Is Here to Stay
我が恋はここに
- ♪ 'S Wonderful
ス・ワンダフル
- ♪ 3rd Movement from
"Concerto in F for Piano and Orchestra"
ピアノ協奏曲へ長調・第3楽章
- ♪ An American in Paris
交響詩「バリのアメリカ人」



●紳士は金髪がお好き●

- ♪ Bye Bye Baby
バイ・バイ・ベイビー
- ♪ A Little Girl from Little Rock
リトル・ロックから来た娘
- ♪ Diamonds Are a Girl's Best Friend
ダイヤモンドは女の子の一番の友だち



●上流社会●

- ♪ High Society Calypso
ハイ・ソサエティ・カリブ
- ♪ True Love
トゥルー・ラブ
- ♪ Well, Did You Evah!
ウェル、デイド・ユー・エヴァ
- ♪ You're Sensational
ユーアー・センセーショナル



●ビクター/ビクトリア●

- ♪ Le Jazz Hot
ル・ジャズ・ホット
- ♪ You And Me
君と僕
- ♪ Chicago, Illinois
シカゴ・イリノイ
- ♪ Crazy World
クレイジー・ワールド
- ♪ The Shady Dame from Seville
セビリアの毒婦

2022年秋 テアトル・クラシックス ACT.2 名優ポール・ニューマン特集 (予定)

URL: theatres-classics.com theatres_movie theatres.movie



若草の頃



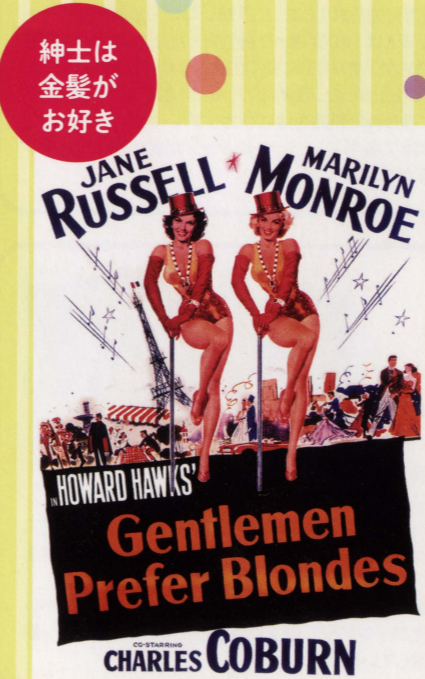
イースター・パレード



バリのアメリカ人

Theatres Classics
テアトル・クラシックス
ACT.1

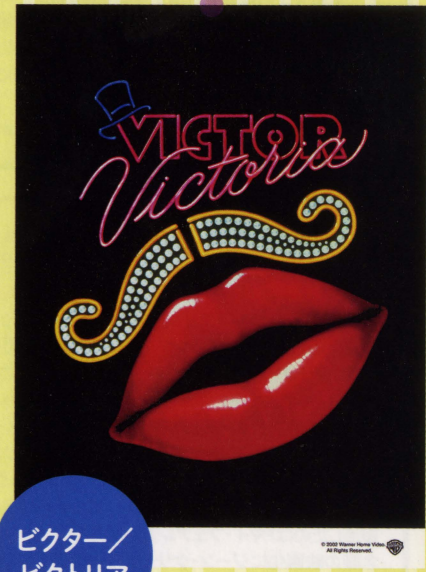
愛しの
ミュージカル
映画たち



紳士は金髪がお好き



上流社会



ビクター/ビクトリア

Theatres Classics

テアトル・クラシックス

ACT.1

誰もが知る不朽の名作や、密かに人気を博す隠れた傑作を、東京テアトルのセレクションで贈るスペシャル・プログラムが誕生。往年の映画ファンには古き良き時代の思い出の作品を再びスクリーンで堪能する喜びを、これまで旧作に馴染みのなかった若い世代にはクラシック映画の素晴らしさをお届けします。

若草の頃 Meet Me in St. Louis [1944年|113分|アメリカ|カラー|スタンダード]

★第17回 アカデミー賞(1945年) 脚色賞/撮影賞/作曲賞/歌曲賞 ノミネート

監督: ヴィンセント・ミネリ 原作: サリー・ベンソン
脚色: アーヴィング・プレッチャー/フレッド・F・フィンクルホフ
製作: アーサー・フリード 撮影: ジョージ・J・フォルシー 音楽: ジョージ・ストール
出演: ジュディ・ガーランド/マーガレット・オブライエン/メアリー・アスター/ルシル・ブレマー/トム・ドレイク



20世紀初頭のセントルイスを舞台にした、心温まるファミリー・ミュージカル。「若草物語」にも似てジュディ・ガーランド扮する次女が原作者のモデル。名子役マーガレットとジュディが歌うシーンが愛らしい家族パーティーをはじめ、ジュディが初恋のときめきを、ある時は悩み(「ボーイ・ネクスト・ドア」)、時には歌い上げる(「トロリー・ソング」)、ヒュー・マーティンとラルフ・ブレインの歌曲が、美しい美術や衣装と共に映画を彩る。中でも泣きじゃくる妹を慰めつつジュディが唄う「メリー・リトル・クリスマス」はクリスマスソングの定番に、ジュディの魅力を引き出すために特に作られた「トロリー・ソング」は、後年の彼女のコンサートには欠かせないスタンダード・ナンバーとなった。監督のヴィンセント・ミネリはこの作品が縁でジュディと結婚し、のちに自身も大エンターテイナーとなる娘ライザ・ミネリが生まれた。作品自体も、単なる楽しいミュージカルとしてではなく、古き良きアメリカの家庭の様子や市井の人々の温かさが、時代背景と共に生き生きと描かれて、今も変わらず観る者を魅了する。

イースター・パレード Easter Parade [1948年|103分|アメリカ|カラー|スタンダード]

★第21回 アカデミー賞(1949年) 作曲賞 受賞

監督: チャールズ・ウォルターズ 原作: フランセス・グッドリッチ/アルバート・ハケット
脚色: シドニー・シェルダン/フランセス・グッドリッチ/アルバート・ハケット 製作: アーサー・フリード
撮影: ハリー・ストラドリング 作詞・作曲: アーヴィング・バーリン 振付: ロバート・アルトン
出演: ジュディ・ガーランド/フレッド・アステア/ビクター・ローフォード/アン・ミラー



1910年代のニューヨーク。フレッド・アステア扮するドンは人気ダンスコンビを組んでいた。が、突如相方に去られてしまい、戸惑いながらも新たなパートナーを見つけ再出発を目指すことになる。相手役に抜擢されたジュディ・ガーランド演じるハンナは、前任者とは180度違った個性だったために互いに四苦八苦する。やがて、これまでを踏襲せず、新たな個性を生み出せば良いと気づき…。共にハリウッドの名門スタジオMGMIに長く在籍しながらも、主役の二人は実はこれが初共演。彼らの持ち味と芸が見事に呼応しあい、愉しく生き生きとしたバックステージものに仕上がった。音楽は「アメリカ・ポピュラーソングそのもの」と言われるアーヴィング・バーリン。実際に1910年代に彼がヒットさせた曲をはじめ、本作の為に作られた新曲を共に(「カップル・オヴ・スウェルズ」の楽しさ!)、或いは個々に(アステアの「ステッピングアウト・ウィズ・マイ・ベイビー」は必見)歌い踊る。加えて名手アン・ミラーのタップが冴える「シェイキング・ザ・ブルース・アウェイ」、ジュディとP・ローフォードの愛らしいデュエット「フェラ・ウィズ・アンブレラ」等が並ぶ。

巴里のアメリカ人 An American in Paris [1951年|113分|アメリカ|カラー|スタンダード]

★第24回 アカデミー賞(1952年) 作品賞/脚本賞/撮影賞/作曲賞/美術賞/衣装デザイン賞 受賞

監督: ヴィンセント・ミネリ 脚本・原作: アラン・ジェイ・ラーナー 製作: アーサー・フリード
撮影: アルフレッド・ギルクス 音楽: ジョージ・ガーシュウィン 振付: ジーン・ケリー
出演: ジーン・ケリー/レスリー・キャロン/オスカー・レヴァント/ジョルジュ・ゲタリー



第二次大戦直後のパリ。米国人ジェリー(ジーン・ケリー)は退役後も祖国へ帰らずに、画家としての夢を実現させようとして、仲間たちとボヘミアンな暮らしをしている。そんな中、彼はパリ娘リーズ(レスリー・キャロン)に恋をするが、彼女は仲間の一人の許嫁だった…。既に若くして世を去っていたジョージ・ガーシュウィンの交響詩「パリのアメリカ人」を中心に、全編にガーシュウィン兄弟の「ス・ワンダフル」「我が恋はここに」「エンブレイサブル・ユー」「アイ・ガット・リズム」といった名曲が溢れる。作詞家である兄アイラは、作品に見合うように新たに歌詞を書き直した。脚本を担当したのは『マイ・フェアレディ』のアラン・ジェイ・ラーナー。念願の映画化にジーン・ケリーは自ら振り付けも担当。終幕では、ローラン・プティの下で踊り、本作が映画デビューとなったレスリー・キャロンと、圧巻のバレエシーンを生み出した。舞台の美術装置家から出発したヴィンセント・ミネリを監督に得られたことも成功の一つだろう。夢を追う仲間たちにはシャンソン歌手としても知られるジョルジュ・ゲタリーや、ピアニスト・作曲家でもある才人オスカー・レヴァントが好助演している。

Musicals are my best friends ミュージカルは、最高の友達!

テアトル・クラシックス第1弾は、「ミュージカル映画」特集。心躍り、身体が弾む、極上の音楽エンターテインメント6作品を一挙上映! 華やかに彩られた音楽、美しく奏でられる名曲、瑞々しく輝く往年のスターたち—— 時を越えて愛され続けるミュージカル・コメディが、熱狂と興奮に満ちた夢の世界へお連れします。

紳士は金髪がお好き Gentleman Prefer Blondes

[1953年|91分|アメリカ|カラー|スタンダード]

監督: ハワード・ホークス 製作: ソル・C・シーゲル 原作: ジョゼフ・フィリス/アニタ・ルース
撮影: ハリー・J・ワイルド 音楽: ライオネル・ニューマン/ジュール・スタイン
出演: ジェーン・ラッセル/マリリン・モンロー/チャールズ・コバーン



“ローリング・トゥエンティーズ(狂騒の20年代)”と言われた大恐慌前の1920年代。ニューヨークからパリへと向かう船上が主な舞台。お金持ちと結婚してゴージャスな生活を送ることを夢見る、二人のショーガールが巻き起こす恋愛喜劇。男性映画の名匠と言われながら、実は粋な女性映画も撮れるホークスがすっきりと楽しくとめ上げた。アニタ・ルースの原作は、これまでもコメディとして1928年にも映画化されているが、本作は原作を基に1949年に舞台ミュージカルとして発表されたものを脚色・映画化している。スターへの階段を昇り始めたモンローが、生き生きと愛嬌たっぷりショーダンサーを演じてその魅力を開花。公私ともにモンローと仲が良かった相棒(お目付け役?)的存在のジェーン・ラッセルをはじめ、この手の作品に欠かせない名優チャールズ・コバーンがコミカルに楽しませてくれる。また無名時代のジョージ・チャキリスも端役で出演。レオ・ロビン作詞/ジュール・スタイン作曲の歌曲もスタンダード・ナンバーとして残っており、特に「ダイヤモンドは女の子の一番の友だち」は舞台当時からヒットしていたが、モンローが歌い踊る場面によってさらに多くの人に印象付けられ、マドンナのミュージック・ビデオでオマージュされるなど、後世にも様々な影響を与えた。

上流社会 High Society [1956年|111分|アメリカ|カラー|アメリカンビスタ]

★第29回 アカデミー賞(1957年) 作曲賞/歌曲賞 ノミネート

監督: チャールズ・ウォルターズ 原作: フリップ・バリー 脚色: ジョン・パトリック
製作: ソル・C・シーゲル 撮影: ポール・C・ボーゲル
音楽: コール・ポーター/ジョニー・グリーン/ソウル・チャップリン/チャールズ・ウォルターズ
出演: ビング・クロスビー/グレース・ケリー/ فرانク・シナトラ/ルイ・アームストロング



1950年代半ばのロング・アイランドの大邸宅を舞台に、再婚しようとするセレブなお嬢様、まだ前妻に未練がありそれを阻止しようとする元夫、式を取材しに来た記者たちが入り乱れる。キャサリン・ヘプバーンが舞台・映画共に主演し大好評だった『フィラデルフィア物語』を基に、コール・ポーターの歌曲を用いてミュージカル化した。お嬢様役グレース・ケリーにとっては、モナコ大公との結婚前最後の映画出演作品となり、彼女を取り巻く男性陣に、演技も歌も達人なビング・クロスビー(元夫)とフランク・シナトラ(記者)を配したことで、ポーターの新曲が一層引き立った。名曲として残るビングとグレースのデュエット「トゥルー・ラブ」の調べに乗せて、幸せだった頃をうっとり思いだすグレース・ケリーが美しい。サッチモこと愛すべきジャズの大御所ルイ・アームストロングが本人役で登場し、仲間たちとの唄と演奏で映画の幕が開くのも機嫌。監督は『イースター・パレード』と同じくウォルターズが務めた。

ビクター/ビクトリア VICTOR VICTORIA [1982年|133分|アメリカ|カラー|シネマスコープ]

★第55回 アカデミー賞(1983年) 歌曲・編曲賞 受賞 主演女優賞/助演男優賞/助演女優賞/脚色賞/衣装デザイン賞 ノミネート

監督・脚本: ブレイク・エドワーズ 製作: ブレイク・エドワーズ/トニー・アダマス 美術: ロジャー・マウス
撮影: ディック・ブッシュ 音楽: ヘンリー・マンシーニ 振付: パディー・ストーン
出演: ジュリー・アンドリュース/ジェームズ・ガーナー/ロバート・プレストン/レスリー・アン・ウォーレン



1930年代のパリ。失業して無一文となったソプラノ歌手ビクトリア(ジュリー・アンドリュース)は、窮地を助けくれたナイトクラブ芸人トディ(ロバート・プレストン)の案じた一計で、女装の男性歌手として売り出す事に。「女装する美しい男性歌手」として一夜にして人気を得る。しかし、やっかみ怪しむ者、女だと思えば(実は彼女)に惚れてしまうシカゴのギャング、それを妬む情婦ノーマ(レスリー・アン・ウォーレン)らが入り乱れての錯綜喜劇に発展していく。劇中のショーとして魅せる「ル・ジャズ・ホット」、ロバートと小粋にステップを踏む「君と僕」、しみじみと心情を歌う「クレイジー・ワールド」をはじめ、ジュリーが粋な男装や女装(?)で華麗に歌い踊る。この他にも、レスリーの持ち歌「シカゴ・イリノイ」や、劇中半ばでジュリーが(後に別ヴァージョンで)観る者を釘付けにする「セビリアの毒婦」などの魅力的な歌曲は、H・マンシーニ作曲/L・ブリッカス作詞。戦前ドイツの映画会社ウーファのコメディを、ブレイク・エドワーズが妻アンドリュースにぴったりの題材と考え、脚色・監督。ロバート・プレストン、ジェームズ・ガーナー、レスリー・アン・ウォーレンといった芸達者たちが脇を固めた。当時のパリを再現したセットや衣装も見どころのひとつ。